

私を育てた  
あの時代、あの出会い

Vol.2

# 「教育はロマン」夢を語る大切さを 教えてくれた恩師の言葉

鹿児島県 鹿児島市立田上小学校校長 **和田幸一郎** WADA KOICHIRO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、和田校長が語る。

朝の短い会話でも子どもと  
向き合う力になった

教師になって5年、旧隼人町立宮内小学校に赴任した頃の私は、授業はもちろんのこと、創作劇や新聞作り、親子キャンプなど、さまざまなことに体ごとぶつかり、挑戦しました。ある時、そんな私の姿を子どもたちがどう見ているのかと思い、私の通知表を作ってもらうことにしました。その中に「生徒を公平にあつかっているか」という項目があり、その評価が「C（努力しましょう）」だったのです。私はどの子にも同じ

気持ちで接しているつもりでしたが、ところが、子どもたちにとってはそうではなかったのです。大変ショックでした。それを機に、私は一人ひとりの子どもを大事にすることをますます意識するようになりました。悩みもたくさんありました。子どもへの接し方、学級経営、授業の仕方、保護者への対応……。その時によく相談したのが、当時教頭の長崎浩司先生でした。私は毎朝、誰よりも早く学校に行き、悩みや分からないことを長崎先生に尋ねました。長崎先生は私の質問に対して、いつも柔和な笑顔で、実是的確に、具体的



わだ・こういちろう 1973年、新採として佐多町立大中尾小学校に着任。旧隼人町立宮内小学校、与論町立茶花小学校、県教育委員会義務教育課指導監などを経て、2008年、鹿児島市立田上小学校に着任。現在に至る。

1973 (昭和48)  
新採として旧佐多町立  
大中尾小学校に赴任

1978 (昭和53)  
旧隼人町立  
宮内小学校に赴任、  
長崎浩司教頭と出会う



卒業アルバムで  
長崎教頭(左)と並んで

1989 (平成元)  
旧枕崎市立  
金山小学校に  
教頭として赴任

1998 (平成10)  
与論町立  
茶花小学校に  
校長として赴任

2006 (平成18)  
県教育委員会に  
指導監として赴任

2008 (平成20)  
鹿児島市立  
田上小学校に  
校長として赴任

算数	理科	国語	英語	道徳	総合	体育	音楽	美術	生活
4	5	5	4	3	5				

子どもたちに書いてもらった和田先生への通知表。評価項目は子どもたちが自分たちの通知表を見て考えた。「生徒を公平にあつつかっているか」がC（努力しましょう）だった

に答えてくれました。私はその言葉に勇気づけられ、自信を持って子どもと向き合うことが出来ました。

地区の理科研究大会で「星の動き」の授業を行うことになった時のことです。導入をどうするか考えあぐね、長崎先生に相談すると「和田先生が撮影している星の写真を使ってみては」と助言され、「子どもがまた星の勉強がしたいと思える授業になるといいね」と言われました。

その言葉に触発され、私は撮りためていた地元・霧島の夜空の写真をスライドにし、暗い教室のスクリーンに再現しました。自分が住む場所の夜空なら、子どもたちは興味を持つと思ったからです。星の色や形、動きなどを説明すると、子どもたちは星の世界に引き込まれていき、「もし北極に行ったら北極星はどのよう

に動くのだろう」など、さまざまな意見が出て盛り上がりました。

授業後、参観されていた長崎先生から「教育にはやはりロマンがほしいよな」と声を掛けられ、メモを手渡されました。そこには「これまで県内の子どもたちの勉強の様子を数知れぬほど参観する機会がありました。でも、今度の授業ほど感動したことはありませんでした」と書かれていました。そして、わざわざ帰りの会に来られ、子どもたちに「意見もたくさん出て、とても良い授業でしたね」と声を掛けて下さったのです。子どもたちは長崎先生の言葉に感激し、その後も星の勉強に熱心に取り組んでいました。子どもをこうして認めるのだなと思うと同時に、長崎先生の子どもに対する温かい姿勢に頭が下がる思いでした。

### 夢や情熱を持って子どもたちに語り掛ける

教師の役割の一つは、子どもたちに好奇心の種をまくことです。その種は、教師がまかなければ眠ったままに終わることが多いのです。長崎先生との3年間で、教師が夢や情熱を持って語ることで、子どもたちの

## 教師の役割は

### 子どもにも好奇心の種をまくこと



世界は広がることを教わりました。

校長になり、子どもと直接触れ合う機会は少なくなりましたが、その思いは変わりません。校長室の前には毎週、四季の草花を飾り、全校朝会は「校長の授業」だという思いで、季節の事柄や学校行事に関連して伝えたいことを、必ず具体物を準備して臨んでいます。毎朝、正門に立って子どもたちを迎え、校長先生と話したいことを書いて投かんする「ふれあいポスト」も設けました。

先生方とかかわる上で心掛けているのは、講話や会議では必ず、具体的な資料を用意したり、私の体験を基に話したりすることです。長崎先生の話はいつも実践に裏付けられ、具体的で分かりやすいものでした。理解できる内容だからこそ、興味を持ち、納得して受け止められるものです。長崎先生から自分が学んだように、先生方が自分の言動からいろいろなことを吸収してもらえような校長でありたいと思っています。